

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立枚方高等学校
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	①卒業時の英検準2級以上合格者の割合の向上 ②学校教育自己診断における生徒の海外交流満足度の向上 ③発表やプレゼンテーションの機会を設けることによるコミュニケーション力の向上
計画名	枚高で未来をひらこう ～Global Learning Hall から世界に羽ばたけ枚高生～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>3「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて</p> <p>(1) 将来グローバル社会で活躍できるよう英語の4技能（「聞く・話す・読む・書く」）を総合的に育成する授業づくりを推進し、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学等の協力を得ながら、英語暗唱弁論大会を充実し、「外国語キャンプ」、「インターナショナルフェスティバル」「10校合同課題研究会」等に積極的に参加する。 ・ 英語検定、英語学力調査等の受検を推奨するとともに、準備講習等を計画的に実施し、令和6年度の卒業時に英検2級レベル到達をめざす。 <p>(2) 国際文化科を設置する学校として、全校的に国際交流・異文化理解教育のさらなる活性化、SDGsに関する課題研究等の充実を図る。</p> <p>国際文化科において、3年間を通じたSDGs課題研究及び国際交流・異文化理解教育の取組みを充実させるとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を育成し、世界規模で考え、自ら考え、調べ、行動、発信できる力を養う。さらに取組みとその成果を国際教養科、普通科とも共有する。</p>
事業目標	<p>現在の古くて活用しづらい視聴覚教室を地域の国際交流の拠点となるGlobal Learning Hall（以下GL Hall）にリノベーションし、国際関係学科LETSの1校としてグローバル人材の育成を推進する。</p> <p>1 SDGs課題研究及び国際交流・異文化理解教育の取組みを充実させ、国際文化科から普通科へ、さらに近隣や他の国際関係学科を有する学校・他県の学校へと発信し、取組みの輪を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外の学校との交流の場として、オンラインを含む現地以外での活動の機会を増加させる。 ・ 国際理解学習プログラム（講演会・多様な外国人との文化交流）を実施し、情報共有する。 ・ 令和5年度近畿地区英語・国際関係科設置高等学校の研究協議会の開催会場として近畿の高校へ情報発信。 <p>以上の取組みから学校教育自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率を92%から95%以上にする。</p> <p>2 グループワーク・ディベート・ポスターセッション等の機会を増やし、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力の育成を推進する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「枚方未来学（総合的な探究の時間）」におけるプレゼンテーション・ポスターセッション等での活用。 ・ 教科・科目の授業でのディベート・プレゼンテーション・ポスターセッションなどでの活用。 <p>以上の取組みから学校教育自己診断「考えをまとめ、発表する機会がある」の肯定率を91%から95%以上にする。</p> <p>3 1・2の取組みから生徒に英語によるコミュニケーションの必要性を実感させ、モチベーションを高めるとともに受験支援体制を充実、英検合格の割合を増やし、2級合格を45%から80%以上に準2級以上を73%から100%へと向上させる。</p>
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッキングテーブル ・ ミーティングチェア ・ ホワイトボード
取組みの 主担・実施者	<p>主担：文化国際部（分掌）、 将来構想委員会（教頭、首席、科長、教務主任、進路指導主事、その他有志）</p> <p>取組みの実施者：全教員</p>
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度の国際文化科の交流や学習の取組みの報告会。（4月） ・ オーストラリア語学研修の説明会、事前研修（5-7月） ・ 「枚方未来学（総合的な探究の時間）」において、異文化理解に関する課題研究とプレゼンテーションの実施。（9-11月）。成果を10校合同発表会で披露。（1月） ・ 国際文化科生徒を対象としたオンライン海外交流の実施。（12月） ・ 1、2年国際文化科全員を対象に、Global Waters English School による国際理解学習プログラムを実施（1月） ・ 実用英語能力検定、国際文化科全員受験。（1月） ・ 留学生との交流会（1月）
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率95%以上 ・ 自己診断「考えをまとめ、発表する機会がある」の肯定率95%以上 ・ 卒業時の実用英語検定取得者割合2級80%以上、準2級以上100%以上
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率94%……………（○） ・ 自己診断「考えをまとめ、発表する機会がある」の肯定率90.1%と微減ではあるが、英語暗唱弁論大会、インターナショナルフェスティバルや合同発表会への積極的な参加、活躍は評価に値する。……………（○） ・ 卒業時の実用英語検定取得者割合2級36.7%、準2級以上57.0%、全体では準1級が4名の合格者が出た。また、新たに受験が終了した3年生に対しTOEIC対策講座の取組みを行った（53名受験）……………（△）
事業まとめ	<p>本校の国際交流の取組みにとって、本事業の成果は大きいものであった。</p> <p>前年度の国際文化科の交流や学習の取組みの報告会、海外語学研修の説明会、事前研修、海外からの留学生や訪問団の受入れ（本校生徒との交流会）、オンラインでの海外交流授業の実施、1、2年国際文化科全員を対象にした外部団体による国際理解学習プログラム、実用英語能力検定の実施など、いずれも環境の整った中で行うことで、効果のある取組みとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さらなる国際交流行事の周知を行い、自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率目標の達成をめざす。 ・ 主に総合的な探究の時間に実施している発表形式の学習を、各教科に広げていく取組みを強化し、自己診断「考えをまとめ、発表する機会がある」の肯定率目標の達成をめざす。 ・ さらなる実用英語検定資格取得者の増加をめざす。